

## 令和3年度 白川郷学園国語科研究構想

### 【国語科での児童生徒の実態】

- 意欲的に活動に取り組む児童生徒が多い(話すこと)(書くこと)
- △表現したいことを整理したり、根拠を明確にしたりして話したり書いたりすることに課題がある。
- △言葉に着目し、内容を正確に捉えて読み取ることが苦手な児童生徒が多い。

### 【学校教育目標】

ひとりだち

自立 共生 貢献

### 【国語科で今後求められるもの】

- ・相手や目的を意識して、場に応じたコミュニケーションをとって考えを伝え合えること。
- ・聴き手を意識した話し方、話し手を意識した聴き方ができること。
- ・言葉による見方、考え方を駆使して、立ち止まって考えたり、客観的に文章の内容を理解したり、よりよい伝え方を考えて工夫したりすること。

### 【白川郷学園で求められる児童生徒像】

- ①自立・・・意欲的に学び、より質の高いものを自ら求め続ける子
- ②共生・・・対話的に学び、仲間と協力して活動する子
- ③貢献・・・深く学び、仲間・地域のために行動する子

### 【研究主題】

「先を読む力」を発揮し、学びを加速させる姿を目指して

### 【全教育活動を通して育てたい資質能力：先を読む力】

先を読む力とは、児童生徒が主体的に問題解決の方法を生み出していく力である。この力は、教師が手立てを与えすぎずの中では培われることはない。全教育活動を通して、児童生徒が、これまでに身に付けた既習内容や生活経験、様々な見方・考え方を駆使して、仲間との対話をしながら試行錯誤する営みを繰り返す中で、培われるものであると捉えている。

### 【国語科で願う子どもの姿（「先を読む力」を発揮している姿）】

「もっと話したい」「もっと聴きたい」「もっと書きたい」「もっと読みたい」という意欲をもち、考えを仲間と伝え合うことで、多様なものの見方・考え方に触れ、自分のものの見方、考え方を広げたり深めたりしようとする姿。

### 【研究内容・具体的な手立て】

(1) 主体的に問題を見いだす導入の工夫	(2) 自ら解決方法を生み出す学習活動の工夫	(3) 自己の学びを自覚する終末の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ つけたい力を明確にした単元を貫く課題・学習計画を設定し、言語活動に取り組む中で学習の必然性や目的意識をもてるようにする。</li> <li>・ 言語活動を位置づけ、学習への明確な目的意識をもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習計画の目的や本時の位置を確認しながら活動を進める。</li> <li>・ 課題に対する自分の考えを必ずもち、対話を通してそれを広げたり、深めたりすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考えを表現し合い、仲間の考えを受けて自分の考えを広げたり深めたりする活動を位置づける。</li> <li>・ 言語活動を通して自分の学びを実感し、他の学びへの意欲がもてるようにする。</li> <li>・ 自己評価・相互評価をし、自分で改善・調整しながら学習を進められるようにする。</li> </ul>

## 第7学年 国語科学習指導案

日時 令和3年10月4日（月）

場所 国語科教室

授業者 小林 雅士

1 単元名 「筋道立てて－根拠を明らかにしながら伝え合う」

教材名 「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」（鈴木俊貴）

2 本時のねらい （6/10）

筆者の論の展開の仕方を分析する学習活動を通して、筆者が事実に基づいた検証を重ね、疑問点を解消しながら仮説を実証していくことで、結論に説得力をもたせていることを理解できる。

**本時における「先を読む力を発揮して、学びを加速させている姿」**  
 本文全体の論の展開に目を向け、仮説と二つの検証と結論がどのように関わり合っているのかを読み取り、仲間と伝え合う姿。

3 本時の展開

過程	主な学習活動	指導・援助（・） / 〈研究内容〉
導入	<p>1 本時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文の二つの意見とそれに関する記述を分析し、「事実」「理由付け」「意見」の三要素がそろい（三角ロジック）、説得力をもたせていることを理解したことを振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初読の感想で明らかにした、「読み深めていきたい表現上の工夫」を掲示することで、論の展開に着目して説得力のある文章の書き方を探るといふ本時の学習の見通しがもてるようにする。 <b>〈研究内容1〉</b></li> <li>学習支援ツールの思考ツールを活用することで、どの生徒も自分の考えを整理できるようにする。 <b>〈研究内容2〉</b></li> <li>グループ交流でお互いの考えの共通点や相違点をもとに対話することで、考えを広げたり、深めたりできるようにする。 <b>〈研究内容2〉</b></li> <li>単元末に行う「真の村の担い手を定義する（村民学ふるさと学習のまとめ）」という活動を意識して書きまとめることで、次の学習への目的意識を明確にもてるようにする。 <b>〈研究内容1・2・3〉</b></li> <li>自分の学びと、なぜその学びが得られたのかを振り返ることで、次の学習に向けた改善・調整ができるようにする。 <b>〈研究内容3〉</b></li> </ul>
展開	<p><b>学習課題</b> 説得力を高める「論の展開の仕方」とはどのようなものだろうか？</p> <p>2 全体の論の展開の仕方を捉え、仮説と二つの検証と結論がどのように関わり合っているのかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>仮説</b> 「ジャージャー」という鳴き声が「ヘビ」を意味する「単語」になっている。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>≪検証①≫</p> <p><b>事実</b> 「ジャージャー」という鳴き声を聞くと、普段とは明らかに異なるしぐさを示した。</p> <p><b>理由付け</b> カラスやネコを警戒する鳴き声では周囲を警戒するだけ。鳴き声を流さない場合は警戒行動をほとんど示さない。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>≪検証②≫</p> <p><b>事実</b> 「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラは、ヘビのように動く小枝に近づき、確認した。</p> <p><b>理由付け</b> 「ジャージャー」以外の鳴き声やヘビに似ていない動きを見せても小枝に接近するシジュウカラはほとんどいない。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>意見</b> 「ジャージャー」という鳴き声を聞いて地面や巣箱を確認しに行くことは、親鳥がヘビの居場所をつき止める上で大いに役立つと考えられます。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>意見</b> 「ジャージャー」という鳴き声からヘビの姿をイメージし、それに似た動きをする小枝をヘビと見間違えたのだと解釈できます。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>結論</b> 「ジャージャー」という鳴き声は「ヘビ」を意味する「単語」である。</p> </div>	
終末	<p>3 自分の考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検証①では確かめられなかったことを、検証②では検証している。</li> <li>検証①で生まれた新しい疑問を、検証②で検証している。</li> <li>どちらの検証でも、事実を解釈して、意見の根拠となるように書いている。</li> </ul> <p>4 深める</p> <p>この「論の展開の仕方」が説得力を高めることにつながっているか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検証①では「見通し」に十分な説得力がなかったから、検証②でさらに条件を変えた実験をして説得力を高めている。</li> </ul> <p>5 学習のまとめをする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①筆者は一つ目の検証では不十分な部分を示し、さらにそれを検証することで、結論の説得力を高めている。私の説明でも、三角ロジックだけでなく、検証したことをどのようにつなげて示すかを考え、説得力が高まるように工夫したい。</p> <p>②初めは検証①と②は別々のものだと思っていたが、グループ交流でのAさんの意見を聞いて、つながりがあることに気付いた。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【評価規準】</b></p> <p>筆者が事実に基づいた検証を重ね、疑問点を解消しながら仮説を実証していくことで、結論に説得力をもたせていることを理解している。（発言、ワークシート）【思・判・表 C(1)エ】</p> </div>

#### 4 単元のねらい

知識及び技能	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。
学びに向かう力・人間性等	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

#### 5 本單元における「先を読む力を発揮して、学びを加速させている姿」



「説得力のある文章を書くには、まず説得力のある文章から、その秘訣を学ぶ必要がある。「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」の筆者は、仮説を立て、検証し、得られた事実を基に根拠を明らかにして自分の主張を述べている。また、図表や語句の表現も説得力を高める工夫である。仲間との対話を生かしながら、そうした工夫を見つけ、その効果を検討し、説得力のある文章を書くために必要なことを理解できた。

#### 6 指導計画

時	学習課題	ねらい 【評価規準】
1	読者がわかりやすく、納得するような「真の担い手学習報告」を書いてみよう。	自分なりに「真の村の担い手学習報告」を書いてみることを通して、説得力のある文章にするには工夫が必要であることに気づき、結論に説得力をもたせるためにどんなことが必要なのか、既習の内容をふまえて考えをもつことができる。 【思考・判断・表現／主体的に学習に取り組む態度】
2	筆者の主張と、わかりやすく説得力があるかどうかに着目して読み、初発の感想を書こう。	『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ』を通読し、「筆者の主張は何か」と「説明には説得力があるか・それはどこからか」という二つの視点から感想を書きまとめることができる。 【思考・判断・表現】
3	筆者の説明をわかりやすくし、説得力をもたせているのはどのような工夫だろうか。	感想を交流し、筆者の主張や大まかな内容を確認し、説得力をもたせているものは何か、考えをもつことができる。 【思考・判断・表現】
4	わかりやすく、説得力を高める図表の使い方とはどのようなものだろうか？	図表に着目し、どんな図表がどんなことを表しているか、どんなことについての説得力を高めているのかについて考えをもつことができる。【思考・判断・表現】
5	説得力を高める「論の展開の仕方」とはどのようなものだろうか？	筆者の二つの検証部分の論の展開の仕方を三角ロジックに当てはめて分析する学習活動を通して、筆者が実験・観察で得た事実を根拠としていることに気付き、「事実」と「意見」をつなぐ「意見を支える根拠（理由付け）」が説得力をもたせることを理解できる。【知識・技能】
6 本 時	説得力を高める「論の展開の仕方」とはどのようなものだろうか？	筆者の論の展開の仕方を分析する学習活動を通して、筆者が事実に基づいた検証を重ね、疑問点を解消しながら仮説を実証していくことで、結論に説得力をもたせていることを理解できる。【思考・判断・表現】
7	わかりやすく、説得力を高める表現の工夫とはどのようなものだろうか？	叙述に着目し、どんな表現の仕方がわかりやすさや説得力を高めることにつながるのか、考えをもつことができる。 【思考・判断・表現】
8 ・ 9	もっと読者がわかりやすく、納得するような「真の担い手学習報告」を書いてみよう。	学習してきた、説得力を高めるための工夫を生かして、根拠を明確にしながら事実と自分の意見を結び付けたり、表現を工夫したりしながら「真の村の担い手学習報告」を書くことができる。 【思考・判断・表現／主体的に学習に取り組む態度】
10	わかりやすさや説得力を高める文章の書き方をまとめよう。	レポートを読み合い、説得力があったレポートと、どんな書き方の工夫が説得力を高めていたかを交流し合うことを通して、説得力のある文章に必要な工夫を理解し、今後の書く活動に生かそうとする意欲をもつことができる。 【思考・判断・表現／主体的に学習に取り組む態度】